

水地申第 18 号 2020 年 3 月ダイヤ改正及び常磐線富岡駅～浪江駅間の運転再開(常磐全線運転再開)に関する申し入れ 団体交渉を行う!

1. 「2019 年 3 月ダイヤ改正」以降の会社の認識を明らかにすること。また、各運輸区所における成果と課題を明らかにすること。

回答：2019 年 3 月ダイヤ改正では、常磐線を中心とした輸送体系の見直しや、乗務員勤務制度の見直しを実施したところである。

●特徴点

- ・常磐線全線開通によって業務量は増加する、一方で水郡線の運転見合わせによって減っている。
- ・「乗務員勤務制度の見直し」によって、乗務時間は充実させてきた。
- ・各職場の希望は把握してきており、様々な要望には出来る限り対応してきた。大きな問題は発生していないという認識である。
- ・拘束時間と休養時間等のバランスをみて、その時のベストなものを設定している。

2. 「2020 年 3 月ダイヤ改正」に合わせて常磐線の全線運転再開に至った経緯と判断の根拠を明らかにすること。

回答：常磐線富岡～浪江間については、期間困難区域の一部において、避難指示が解除される期日が決定したことから 2020 年 3 月 14 日に運転を再開することとした。

●特徴点

- ・安全と健康を確保して運転再開する。
- ・国による避難指示の解除を受けて、公共交通機関として住民の足を回復する使命がある。
- ・軌道の除染や、のり面のモルタル吹付などを行い、線量が 2.5 μ Sv/h 以下になったことを確認した。
- ・社員の健康管理と不安解消の体制などの準備も整えていく。
 - 年 2 回の定期健康診断での血液検査 (放射線技師と同等)、ガラスバッジによる被ばく管理 (原ノ町運輸区)、個人線量計による累積被ばく管理 (定例的に運転再開区間に入らない運転職場、工務職場) を行っていく。
 - 不安解消のために、個人の被ばく量を管理して本人も把握できるようにする。希望者は看護師や産業医の面談を行う。
- ・長時間停車した際のマニュアルは作成して周知している。
 - 基本は列車内に留まることになる、避難する場合のルートも事前に設定しておりハンドル訓練の際に確認している。大野～双葉間では、上り線を活用してバスを横付けして救援できるようにしている。バス会社とも緊急時の対応について契約している。

組合：妊産婦や妊活中の人、幼い子供を抱える組合員の不安は残る。そこにどう配慮していくのか。

会社：妊娠すればこれまで通り乗務員であれば乗務から外すなど配慮する。そうなれば高線量区間を乗務することはない。また、現在のところ原ノ町運輸区には女性社員の配属はない。

不安があれば、まずは管理者に相談してもらいたい。